

熊取町議会委員会会議録

議員全員協議会

令和2年6月19日開催

熊取町議会

目 次

〔議員全員協議会（6月19日）〕

「GIGAスクール構想」に基づく整備スケジュールについて	1
その他	9

議員全員協議会

月 日 令和2年6月19日（金曜）招集

場 所 熊取町役場議場

出席議員	1	番	田中圭介	2	番	大林隆昭
	3	番	浦川佳浩	4	番	坂上昌史
	5	番	田中豊一	6	番	鱧谷陽子
	7	番	文野慎治	8	番	重光俊則
	9	番	二見裕子	10	番	渡辺豊子
	11	番	河合弘樹	12	番	矢野正憲
	13	番	江川慶子	14	番	坂上巳生男

欠席議員 なし

説明員	町長	藤原敏司	副町長	南和仁
	教育長	勘六野朗	総合政策部長	明松大介
	総合政策部理事 兼財政課長	東野秀毅	総務部長	林利秀
	教育次長	阪上敦司	教育委員会 事務局統括理事	吉田茂昭
	企画経営課長	近藤政則	人事課長	橘和彦
	学校教育課長	松浪敬一	学校教育課参事	松藤茂孝
	学校教育課参事	松本歩		
事務局	議会事務局長	藤原伸彦	書記	瀬野裕三

案 件

- 1) 「GIGAスクール構想」に基づく整備スケジュールについて
- 2) その他

議長（矢野正憲君）皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、議員全員協議会にご出席を賜り、ありがとうございます。

本協議会には、町長ほか関係職員の出席をいただいております。

ただいまの出席議員は14名全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議員全員協議会を開会いたします。

（「13時30分」開会）

議長（矢野正憲君）本日の案件は、「GIGAスクール構想」に基づく整備スケジュールについての1件であります。

なお、発言をされる方は、挙手の上、着座で、マスクはつけたままマイクを使ってお聞きいただきますよう、よろしくお願いをいたします。

それでは、案件1、「GIGAスクール構想」に基づく整備スケジュールについての件を説明願います。松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君）それでは、私から「GIGAスクール構想」に基づく整備スケジュールについてご説明させていただきます。

資料に沿って説明させていただきます。

まず、1ページ目、1点目のGIGAスクール構想に基づく取組経過です。

昨年12月、国が打ち出したG I G Aスクール構想ですが、教育I C T環境に向けて、児童・生徒に向け1人1台端末の整備及び高速大容量の通信ネットワークの整備をするという内容のロードマップが示されました。本町では、学校環境においてI C T環境の整備を充実するため、各学校のコンピューター教室の機器更新を令和元年度中に終えたところでございますが、このロードマップに基づきまして、各学校の大容量通信ネットワーク環境の整備、クラウドの整備、また、子どもたち一人一人に1台の端末の整備を、令和2年度に小学校5年生から中学校1年生までの3学年、令和3年度には中学校2年生・3年生、令和4年度に小学校3・4年生、令和5年度に小学校1・2年生と、順次整備を行い、ロードマップどおり完成させる予定としておりました。

2つ目の新型コロナウイルス感染症による影響でございます。

しかしながら、本年に入りまして、新型コロナウイルス感染症が拡大していく中、その対策のため、国などの要請を受けて全国の全ての学校が3月2日より臨時休業となりまして、学校において児童・生徒の学習環境の継続が困難な状況となったところでございます。このような状況におきまして、子どもたちの学びの保障をできる環境を早急に実現するために、国の令和2年度の補正予算にて新たな国庫補助金メニューが示されたところでございます。その補助金を活用し、G I G Aスクール構想のハード整備を加速させることとしております。

次に、3点目のG I G Aスクール構想における取組項目でございます。

具体的な取組項目ですが、左手の丸の印が取組項目となっております。

1点目に、学校高速大容量ネットワーク環境の整備です。

1人1台端末の整備と同時に、校内端末が全て同条件で適切な速度で稼働するよう高速大容量のネットワーク環境の整備を行います。こちらは、令和元年度の3月補正予算にて予算化されておりました。現段階では入札公告を行っている状況であり、引き続き事業を進めてまいります。

2点目に、児童・生徒の端末整備です。

小・中学校9学年全ての子どもたち一人一人に1台の端末を整備いたします。こちらの予算化は、小学校5年生から中学校3年生までは令和2年6月補正予算にて計上を行いまして、議案上程させていただいておりますが、そのほかの小学校1年生から4年生については、同6月の追加での補正予算に計上いたしまして、議案上程させていただく予定としております。

1点目、2点目につきましては、当初国から示されましたG I G Aスクール構想での整備内容となっております。次からの項目は、新たに追加で取組を行う項目となっております。

3点目ですが、緊急時における家庭でのオンライン学習環境整備です。

1つは、W i - F i環境の整っていない家庭への貸出し目的をするモバイルルーターの整備です。W i - F i環境を全家庭に整備することで、緊急時において家庭にあるパソコンやスマートフォンを活用いただきまして、学習環境の整備がされることとなります。

もう一つは、臨時休業などの緊急時に児童・生徒と学校とのやり取りの円滑を図るために、学校側に設置するカメラやマイクなどの通信機器の整備となっております。

次に、4点目です。G I G Aスクールサポーターの配置です。

学校の急速なI C T化を進めていく中で、町及び学校を支援する技術者の配置を行います。学校8校で約4,000台の端末を管理していく中で、使用方法の周知であったり、使用マニュアルの作成、環境整備業者や端末納品業者との間に立って技術的助言ができるサポーターの配置を行うものでございます。

最後、5点目、障がいのある児童・生徒のための入力支援装置の導入でございます。

視覚や聴覚、身体などに障がいのある児童・生徒が端末の使用に当たり支援する視覚情報を点字化する装置や音声を文字化する装置などの支援装置の導入を行うものでございます。

3点目から4点目までは6月の追加補正予算に計上を行い、整備を進めていく予定でございます。ただし、モバイルルーターの整備に関しましては、新型コロナウイルス感染症の第2波など、非常時、緊急事態での家庭での通信ネットワーク整備に備えるために、財政部局と協議いたしまして、

6月補正予算計上に先立ち、予備費にて早急な整備を目下行っているところでございます。

5点目につきましては、補助金の都道府県の配分がまだ決まっていない状況であること、また、現在在籍している児童・生徒が来年度入学する児童においても対象者がいないことにより、6月の補正予算計上を行わず、今後、対応してまいることとしております。

次に、資料の裏面をご覧ください。

4番目、今後のスケジュールでございます。

上段が当初のスケジュールで、下段が変更後のスケジュールとなっております。

端末整備については、当初4か年をかけて整備を行う予定でありましたが、1か年に短縮し、整備を行うこととしております。また、今回、新型コロナウイルス感染症による影響により追加されて取組を行う項目についても、令和2年度中に整備を行う予定としておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

説明は以上でございます。

議長（矢野正憲君）ただいま説明がありました本件について、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。坂上昌史議員。

4番（坂上昌史君）貸出し用のWi-Fiのモバイルルーターなんですけれども、これ、有償を予定しているんですか、無償を予定していますか、どちらですか。

議長（矢野正憲君）松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君）貸出しにつきまして、通信料は有償、実費負担を行いまして家庭に負担をいただくことになるかと考えておりますが、就学援助世帯には学用品名目で支給することを現在検討しております。

以上です。

議長（矢野正憲君）ほかに質疑ありませんか。田中豊一議員。

5番（田中豊一君）ハード整備については前倒しということで、先ほどの補正予算でも説明聞かせていただいたんで、よく分かったんですけれども、整備が大体1月ぐらいということなんですけれども、ソフトですね、いろいろ授業の支援のシステム整備だとか、それからソフトの整備、デジタル教科書だとか学習ドリルとか、そういうものもあると思いますけれども、それについては、ほかの市町村ではもう9月補正で上げるところが出ていますんですけれども、熊取町はどうされますか。

議長（矢野正憲君）松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君）端末の整備と併せまして、ソフトも同時に導入する予定としておりますので、今回、6月の補正予算に同時にソフトの予算としても計上しておるところでございます。

以上です。

議長（矢野正憲君）ほかに質疑ありませんか。そしたら、鱧谷議員。

6番（鱧谷陽子君）オンライン学習の整備ということで、指導者というんですか、技術者の配置を行う、その配置されるのは、先生に対しての指導する方と、それから、子どもたちに対して機械の使い方とかという、そういうのは、先生一人ではとてもじゃないけれど、たくさん子どもたちを教えられないと思うんですけれども、そういうのも考えても、何人ぐらいでどれぐらいの人数を配置されるという予定ですか。

議長（矢野正憲君）松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君）まず、今回の補正予算で計上いたしましたICTサポーターというものにつきましては、こちらの教育委員会と、それから業者間との技術的助言を行っていただく方ということになっております。

これとは別に、ICT支援員というものが存在するんですけれども、そちらの方につきましては、ちょっとまだ予算計上はしておりませんが、今後、予算計上していくことになるとは思いますが、そちらの方は、学校の先生の教材づくりであったり、それから子どもたちの支援等、併せてということになると思いますので、ICTサポーターとICT支援者と、ちょっと別々にはなるのですが、

配置をすることになります。

人数につきまして、ICTサポーター、補助の事業になっております。8校で4名ということになるんですが、より高度な技術を持ったものを導入したいということであれば、人数を少なくしてというふうに国庫補助金の中には書かれておりますので、できるだけ少ない人数で技術力の高い方を採用できたらなというふうには考えております。

ICT支援員の方につきましては、8校で2名ということになっておりますので、今後、そちらの方についても計上させていただくことになろうかと考えております。

以上です。

議長（矢野正憲君） 鯉谷議員。

6番（鯉谷陽子君） ICTが導入されて、いろんなときに対応できるというのはすごくいいと思うんですけども、子どもたち、この休み期間中、かなりゲームに集中しているという感じで、タブレットを持つとゲームという感覚なんですよ。うちの孫を見ていても、タブレットの中に入っていないというのが不思議なぐらいの感覚でしか、多分ないと思うんです。タブレットの中には必ずゲームが入っているものという感覚でしか捉えていませんし、その辺がすごく難しいというか、ゲームの感覚で授業を捉えてしまう、そしたら、面白くなければスルーしてしまう、反応しなくなる、そういうことが考えられるように思うんです。

その辺のことってすごい難しいんです。子どものことをちゃんと分かっていないと、支援員も指導できないだろうし、先生も、その辺のタブレットの使い方というところについてかなり熟練して、こういうもので面白く楽しくできるというふうな技術を身につけないと、子どもたちは機械は機械としか捉えないので、もうスルーして、面白くなければもういいやという感じなんですよ。だから、塾とかで、ここでは勉強しなければならないとか、そういう子どもたちにとっては非常に集中できるし、そこにくるんですごく伸びるんです。でも、もう面白くないとスルーしてしまうという子どもたちにとっては、タブレットというのはすごい難しいと、私は感じます。

だから、その辺のところを皆さんで話し合って、どういうふうに指導していったらいいかというところ辺はかなり非常に難しい問題ですし、それで、あと、障がいの子どもについて書いてあるんですけど、視覚や障がい、音声、そういうところ辺は……、だから、知能障がいというんですか、学習を集中してできない障がいの子どもにとっての、タブレットを使わせるということら辺をどう指導されていくのかということら辺、ちょっと考えていращやることあったら教えていただきたいと思うんですけれど。

議長（矢野正憲君） 吉田教育委員会事務局統括理事。

教育委員会事務局統括理事（吉田茂昭君） まず1つ、タブレットの活用に関しては、学校の授業で行う場合に、あくまで授業で物事を教えたり伝えたり、やり取りするのは教職員なんです。じゃ、このタブレットをどういうふうにするか、つまり、タブレットを見て、子どもたちはタブレットとやり取りして学ぶわけではないんです。

ですから、このタブレットの主な活用の仕方というのは、もう現在、既に幾つか視察に行ったり研究を進めていますが、まず1つは、ノートとしての活用、つまり、自分の書いたものを、例えば周りの人とやり取りするのに、画面に映して、この子はこんなふうに書いているけれど、皆さんどう考えるといったような活用の仕方、あるいは簡単なドリルをするといったような活用の仕方、あるいは資料として、今まである資料というのは先生が前で例えば動画を示していたのを、手元のタブレットで身近に見ることができるといったような活用の仕方。ですから、一つ、あくまで授業をするのは教職員であって、それを、タブレットをうまく活用しながら、今言ったような使い方を中心に進めていくというのが、まず1つ目の考え方です。

支援の必要な子たちへの対応というのは、やっぱり支援の必要な子それぞれ特性がございまして。ですから、今おっしゃったように、あまり動画を見たりとか、動いた文字を見ることが苦手な子に対してやっぱりそれは活用しないようにしなければいけないと思っておりますので、ただ、例えば、

耳で聞いても物事が入りにくいけれども目で画像を見ると理解しやすい子も実際によくいるんです。ですから、子どもの特性をしっかりと理解した上で、どうタブレットを活用することがこの子にとってふさわしいのかは、きっちりと考えて進めていきたいというふうに思っていますので、その辺のところは我々のほうもしっかり研究して進めているという状況でございます。

議長（矢野正憲君） 鯉谷議員。

6番（鯉谷陽子君）ありがとうございます。

やっぱり一人一人に合ったタブレットの使い方というのがあると思うんで、かなり先生方の話合いとかそういうこともすごく重要になってくるかと思えます。本当に今の子どもたちって、食いつきはするんですけども、なかなか長続きさせていくということが非常に難しいところがあるなというふうに感じますので、持続性がつくような感じでの使い方みたいな感じで、先生方、いろいろとお考えていただいているんでありがたいと思えますけれども、またよろしく願いしておきます。

議長（矢野正憲君） ほかに質疑ありませんか。浦川議員。

3番（浦川佳浩君） 端末なんですけれども、タブレット、全員、全部の児童に対してのタブレットというか、i P a dみたいなものなのか、ラップトップのタイプを高学年に使用するか、そういう方針というのはもう出ているんでしょうか。

議長（矢野正憲君） 松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君） 議員のおっしゃるとおり、小学校1年生と中学校1年生では大きく違います。端末の重さであったり、キーボードの有無、取り外しが可能であるとかということが十分に検討がなされていかないといけないと思えます。発注までに十分な検討を行う予定で、今のところ行っているところでございます。

議長（矢野正憲君） 浦川議員。

3番（浦川佳浩君） そうすると、午前中、台数を確保できる云々の話があったと思うんですけど、例えばその方針の中で全員i P a dのような形のものを使うとなった場合に、台数のほうもきちんと確保できるという見込みは立っているんでしょうか。

議長（矢野正憲君） 松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君） 今、入札を行っているわけではないのですが、事前に業者とすり合わせは行って、ちゃんと受注ができるか、納品ができるかということ調整しつつ行っておりますので、そちらのほうは大丈夫と考えております。

議長（矢野正憲君） 阪上教育次長。

教育次長（阪上敦司君） ちょっと補足なんですけれども、学習指導要領とか、今、国のほうがパソコンを、日本はちょっと遅れているよというふうな中で、やっぱりキーボードというのは一定必要が出てくると思うんで、だから、やっぱり一定の年齢以上の子にはキーボードに親しんでいただく、当然、今、参事が言いましたけれども、小学校低学年のときはなかなかキーボード、ローマ字で入力していくというのはちょっとしんどいのかなというふうな話もしてまして、一定、小学校3年生ぐらいでローマ字の時間が出てくる、それ以降については、キーボードを触っていけるというのも、やっぱり今後子どもたちが将来にわたって生活していく上で、やっぱりキーボードに慣れ親しんでいただくというのは一つのタイミングが学校なんかとも思えますので、そのあたりで線引きをして、機種を選定のほうをしていきたいなというふうに学校の先生方とも話をさせていただいております。

以上、ちょっと補足でございます。

議長（矢野正憲君） ほかに質疑ありませんか。渡辺議員。

10番（渡辺豊子君） 3つ目のところの臨時休業中のときの対応についてですが、カメラやマイク等の遠隔学習用装置を整備するというので、これは今回の予算の中に入っていると言っていたんですね。これを活用するためには、I C T支援員が要るんじゃないかなと思うんですが、その辺どうなんですか。

議長（矢野正憲君）松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君）議員のおっしゃるとおり、今回、カメラ、マイクについては6月の補正予算に計上しているところでございます。

こちらの活用なんです、単純にマイクとカメラということだけになりますので、国支援員という形の方は必要なく、学校の先生で取扱いはしていただけるものと考えております。

議長（矢野正憲君）阪上教育次長。

教育次長（阪上敦司君）ちょっと補足で、いわゆるICT支援員というのは、学校の先生方がコンピューターを使って今後授業をやっていく中で、例えばこういう授業をしたいんやけれども、そういうときにはどうソフトをどう活用したら効果的なかなというふうな形で、先生方にアドバイスしていただくようなイメージの方というふうな、国のほうでは言われているんですけども、今回、現在も4月以降、学校休業で授業ができない中で、取りあえずモバイルルーターを家庭にとというのは、いろんな教科書会社であったりとか、文部科学省であったりとか、大阪府の教育委員会のほうからいろんな動画を配信していると、それを取りあえず見ていただける環境を各家庭に、まずつくろうと。その後で、各校で、先生方がいろんな工夫しながら、各校の授業を家庭に届けられるようにというふうな、一定の段階を踏んでいきたいなという中で、まず、今、既存で見られるようになっているユーチューブとかいろんなところに上がっている動画を、全ての家庭で見られるような環境をまず最初につくろうということで、Wi-Fi整備というのをまず進めさせていきたい。

併せてカメラであったりマイクをして、今度、それぞれ学校から配信できるようなものを次のステップとして考えていきたいなというふうな形で、取りあえずまず、Wi-Fi環境については予備費のほう対応いただいて、早急にできるようにというので、今、準備を進めているという状況です。

議長（矢野正憲君）渡辺議員。

10番（渡辺豊子君）以前、議会で西条市のほうに視察に行かせていただいたときに、遠隔授業というのをやっていたんです。それで、そのときに、そういったICT支援員がついて指導していたというか、そういう遠隔授業についての取組を進めていたと思うんです。ですので、せっかく遠隔授業ができるようにカメラやマイクを購入して、授業ができるようにできて環境ができた中で、果たして先生たちがそれがあからといってすぐに遠隔授業ができるのかなというところを思いまして、そこに支援員が入ってくれることによってそういった授業ができるのであるならばと思って、ちょっと聞かせていただいたんです。

ICT支援員、それで、人数が2人と言うていましたけれど、2人で足りるのかなというところを思ったんですが、そのICT支援がいなくてもできるということなんですか、遠隔授業が。

議長（矢野正憲君）阪上教育次長。

教育次長（阪上敦司君）遠隔授業については、今、各学校でもいろいろと、やっぱりパソコン得意な先生方が中心になって、一定こういうふうにしたらできるよなというような研究はやってくれています。やっぱりある程度段階を踏んで、遠隔授業というのは、本町の学校ではそういうふうな経験もないし、実績もないんで、先進の市町の状況とかも踏まえながら、今後、取り組んでいきたいな。

ただ、ICTの、いわゆる支援員については、一定国の補助金の枠というのがございますので、取りあえずその中でまずは対応させていただきたいなというふうなことを考えています。実際、今でもALTの人らが自分らで授業の様子を撮って配信やったりとかいうふうなこともしてくれていますので、その辺で、学校間で先生方がいろんな情報の共有もしながら、遠隔授業というのに向けても、今後、取り組んでいきたいなというふうには考えてございます。

議長（矢野正憲君）渡辺議員。

10番（渡辺豊子君）先生が大変苦勞というか、努力されないといけないのかなというのが、今回の学校休業中でも、そういう取組をやってはる学校も紹介されてはいたけれど、バーチャルで授業というか、遠隔授業をやっているところもありましたので、できたら、先生を支援する、サポートするためにICT支援員が必要であるならば、これは今後予算計上ということですが、それをいつ予算

計上するののかというのと、それで、2人というのは国で規定されていると今言うていましたが、どういう規定で2人になっているのか、ちょっと教えてください。

議長（矢野正憲君）阪上教育次長。

教育次長（阪上敦司君）支援員については、国の補助の具体的な内容とかも、ちょっとまだ今、不明確なところもありますので、ある程度どういうふうな方がいいのかというふうな人選とかは、国のほうの相談窓口のほうもつくられていますので、そのあたりと色々な情報を収集しながら早期に予算化できるようにとは考えてございます。

以上です。

議長（矢野正憲君）渡辺議員。

10番（渡辺豊子君）2人になった理由です。

議長（矢野正憲君）ちょっと待ってくださいね。松浪学校教育課長。

学校教育課長（松浪敬一君）ICT支援員が2人になった理由ということなんですけれども、GIGAスクール構想の考え方、事業の以前は、ICT整備緊急事業5か年計画といまして、平成30年から令和4年までの間、これは補助事業ではないんですけれども、地方財政措置の中でICT整備を全国の市町村で進めていきたいと思いますということで、国が毎年約1,800億円やっと思ったんですけれども、地方財政措置をやしまして、その中の考え方で4校に1名のICT支援員を配置するということが計画されておまして、それに基づいて今後予算計上して配置をしていきたいというふうに考えているものでございます。

もともとの2名という考え方はそこから来ております。

議長（矢野正憲君）ほかに。田中豊一議員。

5番（田中豊一君）午前中の総務文教常任委員会でも、大林議員から質問があつて、校務支援システムの前倒しの話がありましたんですけれども、現に端末を購入しているいろいろな機器をそろえるわけで、実際にはもう来年の1月、2月ぐらいには使えるという中では、やっぱり先生の仕事が増えてくるわけですね。それに合わせて、やっぱり英語の分であるとか、いろいろ学校の先生方の働き方改革の中で、やはり前からこの校務支援システムについての話題が上がっているわけなんですけれども、午前中の答弁では、3年度の末ぐらいというような話があつたんで、これはぜひとも前倒しをしてもらいたいと思います。

先ほど渡辺議員から話が出ました愛媛県の西条市では、やっぱり名簿の作成とか出席、それから指導要録、それから保健管理、歩みとか、通知表ですね、そういうものとか、調査書の作成とか成績処理、こういうようなその他にも、いろいろこの校務支援システムで一律に先生方も打ち込んだらできるというふうな、そういうソフトがあつて、いろいろ役に立っていると。感想を見ましても、ICTの活用によって、先生方も必要なところに時間と労力を費やすことができるんだということで、先生方の声が上がっているわけなんですけれども、これについては、ぜひ来年度の当初予算でも上げられて、早いうちにやっぱり進める必要があるんじゃないかなと思いますけれども、そのあたりいかがですか。

議長（矢野正憲君）阪上教育次長。

教育次長（阪上敦司君）校務支援システムについては、午前中の総務文教常任委員会のほうでもお話しさせていただきましたけれども、早期にということで、そこはまた財政部局とも調整させてもらった上で検討はさせていただきます。

ただ、一度に小・中合わせて4,000台の端末が入るといってもありますので、先生方の、当然授業でもパソコンを活用せなあかん、学校の校務の中でもパソコンを活用せなあかんという中でありまして、その辺、先生方の状況も聞かせていただきながら、できるだけ早期に導入できるようにとは検討してまいりたいと思います。

議長（矢野正憲君）田中豊一議員。

5番（田中豊一君）そのあたりは現場の声も生かしていただいて、先生方の働き方改革に結びつけてい

ただければありがたいなと思います。

先ほどから端末の話が出ていて、今日説明を受けた令和元年度のコンピューターの教室の機器等の更新を行ったという中で、たしか各校40台のタブレットが配置されたと思うんですけども、現在、その活用はどういうふうな活用を、先生方、現場のほうでされているか、ご存じでしたら教えてください。

議長（矢野正憲君）松本学校教育課参事。

学校教育課参事（松本 歩君）お答えします。

令和元年度中に機器更新されたコンピューター教室の40台の端末ですけども、全小・中学校にタブレットが入っております。前回まではデスクトップ型でしたので、先生方に、今、目下研修を受けてもらっていて、それはもう基本全員受けていただいております。それは小・中学校全員の先生方に受けていただきながら、ご自分の教科、小学校であれば教科は特定されないんですけども、いろんな教科で活用できる方法を探っていただきたいという思いで研修を受けていただいております。

また、タブレットなので、コンピューター教室から持ち出して、教室等でも活用できるように、移動式のアクセスポイント、ルーターのほうも4機配備しておりますので、小学校であれば、教室に持っていったとか、教室から離れたところでも活用できるような研修のほうを、今、目下進めておるところです。

幾校かの話聞いておると、もう現在現段階においても授業で活用しているというのをたくさん耳にすることが増えてきておるといのが現状でございます。

以上です。

議長（矢野正憲君）田中豊一議員。

5番（田中豊一君）学校で4か所のアクセスポイントですか、そういうことで、学校周辺でも活用できるということも聞いていまして、やはり機器の整備が仮に来年の1月にできるのであれば、それまでにその40台をやっぱり生かして、先生方も、使い方であるとか、それから生かし方であるとか、そういうことを活用していただいて、せっかくの今配置されている分をやはり研究いただいて、全校に広がった場合どうやと、それで、先ほども話出ましたように、低学年と高学年ではまた違いますよという話もある中で、その点、その40台を生かしていただくように研究していただいて、今後、また聞かせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

以上です。

議長（矢野正憲君）ほかに。坂上昌史議員。

4番（坂上昌史君）遠隔学習のところのカメラ、マイク等のことですけども、大体今の端末ってカメラもマイクもついておると思いますが、あえて別で買う理由を教えてください。

議長（矢野正憲君）松藤学校教育課参事。

学校教育課参事（松藤茂孝君）遠隔のカメラなんですけれども、議員のおっしゃるとおり、今の端末にはカメラもついておまして、それを使ってということももちろん可能なんですけれども、それよりももっと高性能なカメラ、マイクを活用して授業の設定をするということが可能になりますので、そちらの遠隔学習機能のためにということで補助金を活用して導入をする予定としております。

議長（矢野正憲君）坂上昌史議員。

4番（坂上昌史君）その機器が分かれることによって、設定とか煩雑な作業が増えると思うんですけども、それは現場といろいろ相談して、じゃ、そうしようとなったのか、教育委員会のほうだけで決めたのか、それは現場の先生の意見を聞いた上での判断ですか。

議長（矢野正憲君）いけますか。松浪学校教育課長。

学校教育課長（松浪敬一君）今、予算を計上している段階なんですけれども、今の段階では、基本的には指導主事との話の中でやっているんですけども、指導主事から学校現場の意見を聞いた上で、指導主事との調整の中でこれを整備したいということで、予算計上しているという状況でございます。

す。

議長（矢野正憲君）阪上教育次長。

教育次長（阪上敦司君）パソコンについているのと違って、もうちょっと広範囲が映ったりとか、あるいはスポットで映ったりとか、ちょっと機能の多いものというのを考えています。例えば、実験やっている動画を撮ったりとか、広い教室でも広く画角が撮れたりとかというふうな部分で、若干その辺で、パソコン本体についている部分の機能をさらに補えるような機能を持つ部分について各校に配置をしたいなというふうに考えています。

議長（矢野正憲君）坂上昌史議員。

4番（坂上昌史君）全然要らないとも思わないんですけども、結局、接続するの面倒くさいねんとかになって使わなくならないように、できるだけ使いやすいもの、あと、現場の意見も聞いて、本当に多分、これ、家でいる子に実験なりの動画を見せるのに、パソコンにわざわざ入力するの、つないで、ああ、これ、線届かないとか、このマイクいまいち接続悪いねんとかあったりすることもあると思うんで、そういう相性のいいものとか使い勝手のいいものを、ちょっとよく見極めてやっていただきたいと思います。

これ、本当に失敗したら、買ったけれどすごい使いにくい、もう使わないみたいなんですが、僕でも実際にネットで見たらこれいいんじゃないかと買ったりして、何かいまいちやなというのが多々あるので、そういうところは気をつけてぜひやってください。

議長（矢野正憲君）ほかにありませんか。ないですか。

（「なし」の声あり）

以上で質疑を終わります。これをもって、案件1、「GIGAスクール構想」に基づく整備スケジュールについての件を終了いたします。

議長（矢野正憲君）そのほか、何かご報告等があれば承ります。ないですか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

ないようですので、以上で議員全員協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

（「14時09分」閉会）

以上の協議会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議長

矢野正憲